



SAPIENTIA

No.20

発行:聖トマス大学(英知大学)同窓会・サビエンチア会

〒661-8530 兵庫県尼崎市若王寺2-18-1

発行責任者/藤本滝三 編集/サビエンチア会

The Symposium

at St. Thomas Univ.

2009.11.3

tuesday; national holiday

「教会の社会教説綱要(日本語版)」出版記念
カトリック3大学連続シンポジウム

第1回/上智大学(7月4日) 第2回/南山大学(10月3日)
第3回/聖トマス大学
2009年11月3日(火・祝)14:00~

人間共生の在り方と 社会教説

◆ I シンポジウム(無料)

本館3F:301教室

「教会の社会教説綱要(日本語版)」の発行について

マイケル・シーゲル 師

(南山大学社会倫理研究所教授)

「教会の社会教説綱要(日本語版)」翻訳者

【基調講演】

橋本昭一 氏《経済》

(関西大学経済学部教授・聖トマス大学講師・学校法人英知学院評議員)

【パネル ディスカッション】

橋本昭一 氏【経済】

(関西大学経済学部教授・聖トマス大学講師・学校法人英知学院評議員)

本田哲郎 師《労働》

(釜ヶ崎反失業連絡会共同代表)

松本信愛 師《いのち》

(聖トマス大学人間共生科教授)

加藤賢一 氏《環境》

(大阪市立科学館学芸員・聖トマス大学講師)

高木慶子 氏《司会とまとめ》

(日本グリーンケア研究所所長・聖トマス大学名誉教授)

◆ II 交流会(無料)

2号館1階:大会議室

池永大司 教職、パネリストの先生方と
ゆっくりお話をいただけます。

主催:聖トマス大学

共催:聖トマス大学キリスト教文化研究所・聖トマス大学後援会
後援:カトリック中央協議会、大阪大司教区、日本グリーンケア研究所

お問い合わせ:

聖トマス大学キリスト教文化研究所 電話/06-6491-5000
〒661-8530 兵庫県尼崎市若王寺2-18-1



いじめごまかす

サビエンチア会 会長候補

1973年
文学部イスパニア文学科卒
藤本滝三

平素は同窓会活動にご協力をいただき、誠にありがとうございます。

私は、2009年4月1日より和田前会長の後任として同窓会会長に選出されました。藤本滝三と申します。よろしくお願いたします。

すでに大学からの書面や各新聞紙上の記事等でご承知と存じますが、聖トマス大学では来年度からの新入生の募集を停止することが発表されました。6月6日・7日に保護者に対する説明会が大学の講堂にて開催され、理事長と学長からこれまでの経緯と今後の方針についての説明がありました。同時に我々同窓会役員もこの説明会に参加いたしました。

ここに至った大きな原因として、2000年より定員割れになり、それにもなつて経営状態が芳しくなくなり、それ以来、入学生数の右肩下がりが続いて2008年から経営が急速に悪化したとこのことでした。しかし、これらの問題は突然に発生したわけではなく、すでに叫ばれて20年以上が経ち、その間に

大学も最善の策を取つてこれたと我々は信じていました。2年前にSTUに加盟し、校名も改名しました。同窓会は開学50周年事業の取り組みにも参加したことから、私は大学のこれらの動きに期待し、これで安心と思つた矢先に今回の新入生の募集停止の発表でした。このことがなかなか理解ができず残念で悔しい思いをしております。

学長の説明では「現一回生が卒業する3年半後までは責任を持って大学を運営する」とのことでした。そしてこの3年半の間に統合・合併の道を探り、生き残りを模索するとありました。

同窓会としては、大学が母校を守るためにどのような生き残り策を進めていくのか、同窓生の我々が3年半後以降も、校舎を引き継いだ新しい学校法人に大手を振つて足を踏み入れることができるように働きかけをする、また学内にはこのまま大学を残そうと頑張つていらつしやる先生方もおられると聞いています。この先生方が今後どのように活動をされていくのか、これらの成り行きを注視していますが、しかし「注視す

募集停止についての説明会

[大学主催]

日時/2009年11月3日(祝)
11時~12時30分

場所/H401号教室(階段教室)

同窓会総会

日時/2009年11月3日(祝)
13時~14時30分

場所/コロクトリウム

るだけで良いものか。

いま、目標を無くしてしまつた大学の中では、教職員の皆さんのモチベーションも下がってくるだろうと思われれます。そのような状況の中でも、現役学生の方々には、聖トマス大学を卒業して良かったと思えるような学内環境を「大学らしく保持していただくよう、学長に要請をしていきたい」と思います。特にこの二点が我々同窓会役員の大きな役割と考えています。

今回の件について大学からの説明は一通の書面のみでした。母校を失う我々卒業生に対してあまりにも簡単すぎると思いませんか?

11月3日(祝)のホームカミングデイにおいて、大学主催で学長直々に説明をしていただく場を設けました。そこで直接学長に皆さんから質疑応答をしていただきたいと思つています。その後、同窓会主催の総会に移り、今後の同窓会活動と、同窓会を維持するための方策を皆さんと討議したいと思つています。母校を愛する卒業生の皆さん、一人でも多くの方々のご参加を切にお願い申し上げます。

同窓会への寄付金 (援助金)のお願い

会計担当 野村裕

1974年 文学部英文学科

同窓会会員の皆さま、日ごろからサピエンチア会活動にご支援を賜り、誌面上ではございますが、心から厚く御礼申し上げます。先日、ある教会の50周年記念誌作成の依頼を受け、古い写真を探していたとき、懐かしい【英知大学新聞】昭和46年(1971)12月31日発行の新聞を発見し、感慨深く再読してしまいました。当時は、少ないメンバーながら「英知大学新聞委員会」は対話する新聞会として活動されており、私が2回生の当時のものです。

紙面には大学祭、学生会長選挙、執行部会計・予算・決算等々、その中に「学費値上げを決定」という記事がありました。

4月に開かれた連絡懇談会の席上、故学長当時学長は学費値上げ学長試案を学生会に提出。収支計算書、借入金および入学者状況の資料も併せて公開。学生会執行部は、全学生に同案の説明会を開催し意見を収集し、一方、代議員会ではクラス別討論会などを開いて意見の集約を図った。後に、代議員議長と学生会会長の学生会代表部との会議で討議され決定された。

当時この大きな問題に対して、組織的手順を踏んだ細かい運営が為されていたものと考えます(当時、体育館建設等の設備投資案件があった)。

このような運営は、当時の時代背景や学生会組織の強さ、大学生気質等の要因だけであつたのでしょうか。学校運営の中で学生への配慮があり、物ごとを決定する上で議論しあつたものではなかつたでしょうか。

大学を支えているものは理事会、教授会、教職員だけでなく、学生、後援会(保護者会)、卒業生(同窓会)が一体となった共同体であ

るものと確信しております。カトリック教会でも、共同体精神を強く意識し、実践を促しています。

今回の最大事である、新入生の募集停止に至る組織的な手順、細かな配慮ある運営に関して若干の疑問が残り、腹立たしさを感じております。学費値上げより重大な問題に対して、密室決議としか思えず、寝耳に水の感が否めないことは事実です。

この経営判断により、我々同窓会組織として、入会金徴収という大動脈が断たれ、組織運営が成り立たなくなる現実を突きつけられたことです。過去から入学時には同窓会会費を大学側が代理徴収するという運営が為され、潤沢な資金が毎年入ってくるシステムでした。その費用での機関誌の発行、ホームカミングデイの開催、大きな金額が必要な郵送費などを賄ってきました。

十数年前、入学時に同窓会費を大学側が代理徴収できなくなり、4回生の前期、後期授業料払い込み時にお願ひ文を作成し、依頼し始めたころから、同窓会入会金徴収が滞りがちになり、縮小金庫に追いやられてきました。その当時から会員の皆さまには、終身会費、年会費のお願ひをさせていたいただきましたが、満足な徴収ができたとはいえません。卒業生が二万名近くにもなる(発送確認可能者は約六千名)組織体にもかかわらず、この現状です。一人1円、いや100円のご協力の積み重ねが、運営を支えています。今回ここに至った大学の経営状態と苦渋の決断は、我々同窓会にも責任の一端があるものと考えます。

《もしも》、同窓会費が潤沢で数億円の貯蓄があれば、この窮状を少しでも救えたかもしれません。また、アメリカなどのように、私立大学等はいろいろな寄付で賄われ、と

くに卒業生からの寄付が最も多いと聞きます。我々役員も、卒業生の寄付だけに頼るのではなく、収益事業や運営方法の改革など、他に考える余地はあつたと思ひます。これからも重要であると認識しております。やつと1期生がアラ還の年代になり、益々活動が活発になりかけたときだけに残念でなりません。現実には、仕事をしながらの中堅社員の役員が多く、すべてを満足に運営することは非常に難しい状況にあります。

これから我々サピエンチア会は存続し、活動を続けなければなりません。そのためには会員の皆さまとの交流、機関誌の発行・郵送、ホームカミングデイの開催など、運営資金が最低限必要です。資金がなければホームページ上での交流、報告、決議などの運営となり、非常に制約された活動となるでしょう。こうした現状をご理解いただき、今まで以上のご支援をお願ひするものです。また資金集めの良策があれば、どしどしお教え願ひれば幸いと考えます。

この予期せぬ経緯ではありますが、二期一会。たまたま巡り合わせた仲間：一人ひとりの絆を大切に、ともに手をつなぎ苦難を皆さんと乗り越えていきたいと思ひます。

※今回、振込用を同封させていただきましたのでご利用ください。よろしくお願ひ申し上げます。

2009年度予算案(概算)		
収入科目	収入	主な内訳
繰越金	1,533,895	
新入生入会金	0	
新4回生入会金	1,200,000	60名/200名44回生
HCD売上	200,000	
収入合計	2,933,895	
支出科目		
支出科目	支出	主な内訳
交通費	50,000	会員の交通費
通信費	40,000	主に電話代
事務用品費	10,000	
会議費	5,000	
事務局維持費	330,000	事務局委員(名簿・入金データ入力)、メール管理、会計データ入力代
会費・委任状	175,000	大学生連の説明会案内状に同封により郵送料不要 会費、委任状、振込用紙、合計15万円、返信の手2.5万円
HCD	450,000	
助成金	70,000	南山戦2万、実行委員会2万、球技大会3万
システムHP	200,000	名簿管理ソフト10万、ホームページ管理 変更10万
献花・記念品	220,000	卒業式献花2万、記念品、功労賞20万
関係支部	0	昨年度の繰越金約18万円にて運用 今期新規計上せず
雑費	10,000	
借入金返済	600,000	全額返済
支出合計	2,360,000	
次年度繰越金	573,895	

同窓会世話役の募集

サピエンチア会では早急に各卒業年度、各学科、各種クラブ、サークルでの同窓会と同窓会の間を取り持っていたいただける世話役の方を募集します。本誌をご覧の同窓生で、自薦、他薦は問いません。あの人だったら、あの先輩・後輩だったら、自分は執行部では顔が広い…。在学中に目立っていた人や、卒業後久しぶりに会ったが大変逞しくなっている人…。サピエンチア会も、同窓生のネットワークづくりを早急に準備してまいります。今後母校がどのような形になっても、同窓会は存続します。いや、させていかなくてはなりません。今後の同窓会を運営するため、ぜひ皆さまのご協力をお願いします。

サピエンチア会
副会長 地村昭彦
(1989年 フランス語フランス文学科)

ブルームティズ活動報告

昨年11月3日の同窓会総会において、同窓生3名で立ち上げた「ブルームティズ」の活動実績と今後の活動についてご説明いたします。

ブルームティズの活動目的は学生・教職員・留学生・近隣の方々との交流の輪を広げ、活気あるキャンパスづくりをめざし、学内のさまざまな業務に関わりを持ち、おこがましいようですが、教職員の方々の目の届かない部分を補えればと考え活動を始めました。

手始めに、毎週火曜日にサピエンチアタワー8Fでカフェをオープンしました。今では地域の方々の絵の展示、近隣の老人ホームの方々、留学生、卒業生、教職員、学生の憩いの場として本来の目的どおり、賑わいを見せておりました。そしてこれを基盤として次に繋げようと考えておりましたが、突然の新入生の募集停止発表となり、非常に残念でなりません。このような中でブルームティズとしての将来の展望が見えなくなり、メンバーといろいろ検討した結果、残念ではありますが、年内で解散をするという結論に達しました。

同窓会から依頼を受けている事務局管理については、1月より事務局員の宇野君個人に業務を継続してもらう予定です。さらにキッズのサッカー・チアダンススクールについてですが、今では地域にしっかりと根付き、メンバーも50名を超えるまでに育ちました。しかしこれらのスクールも、3年半後にはどうなるのか保護者の方々は心配されています。我々としてはグラウンドが使用できる限り、維持継続をしていきたいと考えております。

最後に、今までの皆様方のご協力に、心より感謝いたします。ありがとうございました。
ブルームティズ代表 泉 啓太(1977年文学部フランス文学科)

懐かしいもの発見!!
へへ、学生新聞が発行されてたんや!



38年前には新聞委員会もあつたようです。大学祭のあり方や、授業料値上げについて、そのころの学生たちが真剣に考え、議論していることが読みとれます。それにしても立派な記事、文章、割付です。とても20歳そこそこの若者が作った新聞とは思えない内容です。その学生たちも今では「アラ還世代」

球技大会に参加して

梅雨の晴れ間の6月20日、聖トマス大学体育館において球技大会が開催されました。この球技大会は、体育祭実行委員会主催で5月23日に計画されていた体育祭が、連悪く新型インフルエンザ流行のため中止となったので、その代わりに開催されたものです。

インフルエンザ対策の校措置開けの6月6日・7日には、大学から来年度の新入生の募集停止についての説明会が行われ、大学の中がみるみるうちに、希望の学舎からどこにもぶつけようのないグレーの世界に入り込み、みんなが沈み込んでいました。

街を歩けばほとんどの人がマスク姿、大学に来れば先行きの不安を感じ、「このままでは学生たちが可哀想だ!」との思いから、体育祭ができないのなら、せめて球技大会でもやろうと、体育祭実行委員会を中心に参加者を集め、第一部として天候に左右されない体育館で、卓球とバスケットボール大会を開催しました。

今回は新しい試みとして、中国人留学生にも日本人学生たちとの交流を今まで以上に持ってもらおうと参加を呼びかけました。バスケの得意な留学生…、また中国お家芸の卓球…と大変な盛り上がり。留学生は40名ほどを含めた参加者は70名を超え、そろって良い汗をかいたことでしょう。

いつものことですが、こんな時だからこそ多くの教職員のご参加をお願いしたかったのですが、数人の方々の参加しかなかったのが残念でした

第二部として、コロクトリウムにおいて学生達の交流会が開催されました。開催にあたり同窓会からサンドイツやおやつ、飲み物などの差し入れをしました。芸達者はどこにでも居るもので、楽しい交流会でした。学生たちの交流という面からみて、きっと良いきっかけになったのでは…と思います。

藤本滝三
(1973年文学部イスパニア文学科)

▼【2008年11月16日】
アルバレス先生のお墓のあるメディアナ・デル・カンポへ向かいました。車で1時間ほどの距離でした。現地で谷村ファミリーと合流しました。彼は1988年卒とのことでした。奥さんのパロマ、百合、太郎の4人家族で我々を迎えてくれました。全員日本語がペラペラでした。アルバレス先生の甥っ子のヘスさんが墓を案内してくださいました。最初に山本君がイスパニア語でスピーチしました。なんともいえない不思議な素晴らしい雰囲気でした。次に私もイスパニア語で先生に1月のお見舞いに感謝を述べ、また体調が戻ったことをお伝えいたしました。胸がつまりました。晩秋の墓地のあたりには幸せな空気が流れていました。全員のが気持ちも一緒だと感じました。



写真上! 前列 谷村さんのご家族。
後列右より谷村さん、アルバレス先生の甥のヘスさん、山本夫人、木村、大橋、山本

写真右・エルマーナ・コロール先生の墓。
セビリア南部のレブリーハという町です

ろもろでした。感、幸福感、感激…もア語で行いました。安堵

恩師墓参りと 遅い修学旅行

70年イスパニア文学科卒業の3名の方がスペイン旅行をされました。その様子を木村慶次さんから寄稿いただき、同窓会ホームページから一部抜粋してご紹介いたします。詳しくはホームページをご覧ください。

木村慶次
(1970年文学部イスパニア文学科卒)



ホセ・ルイス・アルバレス先生
1935年大阪外語大教授として来日。
1965年英知大学イスパニア文学科の創設から尽力され、1995年帰天されるまで30年間学部長。その間、日本・スペイン両国からその功績を称え、勲章を授けられる。



コロール・ベジド先生
1967年来日
1987年帰天されるまで20年間、英知大学でイスパニア語教授。授業は厳しかったですが大変美しい先生でした。室が崎での奉仕活動は「西成のマリア様」として新聞やテレビでたびたび取り上げられ、有名になりました。

▼【2008年11月18日】

新幹線のAVEでセビリアへ行き、そこから車で1時間ほどのレブリーハへ行きました。コロール先生の故郷です。先生の墓は教会の墓地にあり、墓守さんに案内してもらいました。その前にお参りの花を向かいにある花屋さんで買うことにしました。山本君が真っ赤なバラを希望し、奥さんの緑さんもそれがよいと言われ、コロール先生に似合う真っ赤なバラを墓に捧げました。このときもスピーチはイスパニア語で行いました。安堵感、幸福感、感激…もろもろでした。

聖トマス大学留学生を迎えて

稲田新平 佳美
(1970年 文学部英文学科)

9月5日午後、私たち夫婦は留学生を迎えに、夏休みで人気がまばらな聖トマス大学キャンパスに車を着けました。残暑厳しい日でした。約束の2時きっかり携帯電話に連絡を入れ、休憩室に入っていくと、おや涼しい! エアコンが入っている。学生がバラバラ数人いるが、夏休み中のこの時期にちよつともつたいないのでは…と思いつながら待っていますと、きれいな女性が2人歩いて来ました。

お互い簡単に自己紹介し、少し話をしました。蘇州出身の王さんと万さんです。お2人は蘇州科学技術学院大学から3月に聖トマス大学へ1年間の予定で留学され、現在3回生です。正直なところ、当方は中国語がまったくできないためやや不安でしたが、すでに蘇州の大学の日本語学科で学んでいるとのこと、スムーズに日本語で話げできました。私は中国へはたびたび出張で訪問しており、上海周辺はおおむね見当がつかず。蘇州は上海から特急で約1時間少し内陸に入ったところでした。

何かしたいことは?と尋ねると、お寿司の作り方を教えてほしいとのこと。どうやら巻き寿司のようです。さっそく帰り道にスーパーで巻き寿司を確認し、食材を購入。帰宅後、彼女たちが自分で作れるようにと、家内がひとつひとつ具材の説明や味付け



を教えていくと、毎日惣菜を作っているだけあって覚えが早く、立派な巻き寿司ができました。そして自家特製お好み焼きと彼女たち特製の巻き寿司で、いろいろ話が盛り上がりました。

翌日も朝から好天気。夏以上に暑くなってきたので少しは涼しく…と思いつ、六甲山へ。出発時は車の外気温表示が32度Cでしたが、登るにつれてだんだん下がりがり、標高900メートルの頂上では26度Cでした。頂上からの眺めは、霞のせいで関空までは見えませんが、大阪湾が一望でき、まじは満足。再び32度Cの下界に戻って神戸中華街へ。ちょうど昼ごろでにぎわっていましたが、観光客の多いところは避けて、「ミント神戸」へ。混雑も過ぎたところ、美味しい料理とデザート、スイーツを好きだけ食べて大満足(食べ放題:彼女たちは知っていました。○○放題)。

夏休みの最後には沖縄旅行を愉しむ:と語っていたお2人、中国土産をいただき大変ありがたうございました。その後1週間ほどして、彼女たちからお礼の手紙が届きました。失礼ながら、きれいな文字に感じ、同年代の日本人より絶対に上手です。蘇州へ行ったら、お2人で案内してください。そうです。乞う、ご期待!

藤本滝三
(1973年文学部イスパニア文学科)

おかえりなさい

★2009年11月3日(祝) 11:00~17:00★

welcome to Home Coming Day

2009年度
ホームカミングデイ
のお知らせ

〈スケジュール〉

★11:00~12:30

入学生募集停止についての説明会 by 学校法人英知学院

★13:00~14:30

総 会 by サピエンチア会

★14:30~15:30

Special Live by Chi-Ja(金智子)さん

★15:30~17:00

ビンゴゲーム 今年もまた豪華景品が当たりますよ~

皆さまお誘い合わせの上、ぜひお越しください。お待ちしております~!!
駐車場の都合上、公共交通機関をご利用をお願いいたします。

chi-ja.com about me で検索しました。



シンガーソングライター。大阪府出身。在日韓国人三世。
英知大学 2001年英語英文学科卒業
韓国ソウルに続き、米国ロスアンゼルスでの海外駐在勤務中。2代目コロムビアローズに出会い、師事。
日本アマチュア歌謡祭世界大会ロスアンゼルス代表出場(会場:メルパルクホール)。
帰国後の2003年キングレコード「はじめてのペーサイン」(ナレーター:石田ひかり)に参加 童謡を歌う。
人生初舞台は自身の高校卒業式で 答辞を読む合間に手話コーラス隊と「花」(作詞曲:喜納昌吉)を唄う。

昨年のホームカミングデイ

今年もホームカミングデイが近づいてきました。昨年はたくさんの卒業生に来ていただき、教員・卒業生物故者追悼ミサや、卒業生でゴスペル歌手としてご活躍の大上留利子さんのライブ等、盛りだくさんのイベントで盛り上がりました。しかし一番の楽しみは、やはり何十年ぶりに出会う旧友との再会でした。さて、今年はどうな懐かしい顔を見られるかなあ…。



教職員・卒業生物故者追悼ミサは、ふだんカトリックとあまり関わりのない、信者でない人も一緒に参加します。厳粛な雰囲気の中で行われるミサに感動し、素晴らしい体験ができたと好評でした。



ロック&ソウル歌手の大上留利子さんによるミニライブ(1974年仏文科卒)。迫力ある歌声に拍手喝采でした。



アーチェリーで北京パラリンピックに出場された山川八恵さん(1977年仏文科卒)。壇上で一言ご挨拶いただきました。



毎年ホームカミングデイでお手伝いいただいているユースホステル部のOB・OGの皆さん。全員50歳以上です。若いOB・OGの皆さんもお手伝いに来てください。お願いします!!



この日に会わせて毎年OB戦を行っている軟式テニス部の皆さん。次の日、筋肉痛は大丈夫??

篠原一夫 (1978年文学部イスペインア文学科)

同窓会ホームページのご案内

Yahooで「サピエンチア会」と検索してください。写真のようなホームページが現れます。ご存知のとおり、聖トマス大学では来年度より新入生の募集を停止いたしました。同窓会にとっては、メインの収入源でもある入会金が見込めなくなり、活動停止や存続をも危惧する事態です。本誌『SAPIENTIA』の発送も今回が最後となる可能性がございます。このような状況の中で、費用的に安価な手段であるホームページへの掲載が、今後ご連絡する主な手段となります。ぜひこのURLを「お気に入り」に保存してください。

URLを忘れてしまった場合は「サピエンチア会」で検索してください。今後このホームページをさらに充実させて、ときどき見に来ていただけるような魅力あるものにしていく予定です。また卒業生の皆さまからの情報を掲載し、お仕事のホームページへのリンクや宣伝も募集していくことなど、いろいろとアイディアを練りながら検討しています。

篠原一夫 (1978年文学部イスペインア文学科)

サピエンチア会

聖トマス大学 卒業生同窓会

★ 卒業生専用ページ ★ 卒業生専用ページ ★ 卒業生専用ページ



ようこそ、学び舎タイムマシンへ。

〈<http://www.sapientiakai.com>〉

聖トマス大学同窓会 サピエンチア会事務局

〒661-8530

兵庫県尼崎市若王寺2丁目18番1号

Tel & Fax 06-6498-6258

取扱い時間/毎週火曜日 午前10時~午後5時

E-mail : jimukyoku@sapientiakai.com

編集後記

今年は、新学期から新型インフルエンザによる休校措置、大学の入学募集停止の発表があり、希望の春が失望の季節となってしまいました。それでも容赦なく時間は過ぎて、ホームカミングデイのシーズンを迎えます。この間、開学50周年記念事業合同会議や球技大会、中国人留学生のためのホームステイプログラムへの協力など、例年にない忙しきでした。こんな時期だからこそと、いつものホームカミングデイ以上に充実したものにすべく、役員一同がんばっています。学長の説明会や総会など、堅い行事の後には、楽しいイベントで盛り上がりましょう!!

今年のライブはChi-Jaさん(金智子=2001年英語英文学科卒)がゲスト。東京を始め海外でもご活躍中です。熱いハートを持った彼女の歌をぜひ聴きに来てください。

この大学で学んだこと、出会った友人、先輩、先生方、思い出のすべてが私たちの宝物であり、誇りです。楽しい秋の一日を過ごしましょう!! 皆さんにお会いできることを役員一同楽しみにしています。

西川由紀子 (1981年度文学部英文学科)